

## 第1回新おおた教育ビジョン策定懇談会 議事要旨

1 日 時 令和5年6月5日（月）午後2時30分から午後5時まで

2 場 所 大田区立消費者生活センター2階 大集会室

### 3 内 容

(1) 座長、副座長の選出

座 長 東京女子体育大学 尾木 和英 名誉教授

副座長 大田区教育委員会 小黒 仁史 教育長

(2) 新ビジョン策定にあたっての意見聴取

(3) 中学生意見発表

### 4 小黒教育長挨拶

おおた教育ビジョンは、大田区基本計画の分野別個別計画であり、教育基本法に基づく教育振興基本計画として位置付けられている。また、計画期間は令和5年度をもって終了する。このことから、後継となる5年間の新たなビジョンを策定するにあたり、区民の皆様から大田の教育に対する幅広い意見をお聴きするために、この懇談会を開催させていただいている。

これまで3期にわたる振興基本計画のもと、大田区の教育も着実に充実してきた。特に、学力の向上や、子どもたちの自己肯定感など、このビジョンを基にオール大田で取り組んでおり、その成果が現れているところである。

現在のビジョンについては、やはりコロナの影響を大きく受けた。学校の臨時休業や学校行事の縮小などがあり、教育活動が制限された。しかしながら、その中でも、このビジョンのもと、各学校の創意工夫や地域の方々のご協力により、一人1台のタブレットを活用した教育、ものづくりなど地域の特色を生かした創造的な学びの推進など、確実に進展した教育施策もあった。

現在の教育を取り巻く課題としては、将来の予測が困難な時代と言われており、その未来社会を力強く生きる子どもたち一人一人の豊かで幸せな人生と、社会の持続的な発展のために、自ら主体的に考え、社会を作り出していく、そういう資質・能力の育成が求められている。同時に、地域での人とのつながり、地域全体の幸福感や安全・安心、居場所としてのあたたかさを作っていくような、地域を支える人材を育成していくことも大変大事なことであり、教育の役割であると思っている。

新ビジョンについては、子どもたちが未来社会を力強く、創造的に生きる教育について、区民の皆様の教育に対する思いが十分に反映されたものとなるよう、広く、深くご意見をいただきたい。

### 5 委員からの主な意見

#### <学力について>

・学力を三重構造で捉えると、一番の基になるのが基礎・基本で、いついかなる時代でも大事になる。これと併せて、生きていく中で様々な困難を乗り越えていくために思考力や判断力を身に付けていくことが非常に重要。さらにその上に実践力がある。今回の新たな教育ビジョンが、こうした新しい学力を育てていくための授業づくり、学校づくりを支えるものとなればいい。(尾木座長)

### <生活指導について>

- ・自己実現というのは、自分の良さはどこにあるか、自分はどのようなことを頑張れるのかということを考えて、実現していくこと。この自己実現の根底にあるのは、自分を大事にするという気持ち、自尊感情であるが、諸外国と比べて、日本の子どもたちは自尊感情が低い。生活指導の中で、自分はこんなことができた、自分にはこんな良さがあるという気持ちを育てていくことが大事。(尾木座長)

### <コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)について>

- ・今まで学校のことは学校に任せて下さいと言っていたものを、これからの学校教育は、その地域で育ち、地域の良さを知っている人たちにバックアップをしてもらいながら、学校ごとの特色を作っていかなければならないという背景から、学校運営協議会制度が出てきた。これが進んでいったときに、色々な特色のある地域のある大田区に、地域の歴史や文化を生かした魅力的な面白い学校があらわらにできてくるのではないか。(堀内委員)
- ・校長先生と何度も何度も話を重ね、学校側の気持ちを地域に伝え、コミュニケーションを取っていくことにより、子どもたちにとってより良い学校生活を送れるようにしていく必要がある。(河野委員)

### <国際教育について>

- ・大田区の多くの学校からの要望で、世界中からの留学生を連れていき、自分の国について語ってもらうという取組を続けていた。子どもたちは、ふだんなかなか知ることのできない事柄が目の前で展開されることで喜んでいて。大田区は羽田という日本の玄関口があり、気分的にも外国に対する子どもたちの興味・関心も深まるのではないか。そこを生かして、例えば地域の英語を得意とする方に入っただけながら英会話の練習をするなど、各学校の置かれている立場を生かしながら、英会話を楽しむ活動に取り組んでいけるのではないか。(堀内委員)

### <豊かな心について>

- ・自尊感情について、ほどほどの良さ、この程度でいいんじゃないかというくらいで、自分の良さを認めていくことが大事。それが自分を受け入れる力や他者を受け入れる力になるのではないか。また、今の子ども達は、特にコロナになってから、他者に非常に気を遣いながら、自分のやりたいことを抑えてしまう子どもが多く、それでは適切な自尊感情や豊かな心が育たない。大人がよく見てあげる必要があるのではないか。(有村委員)
- ・豊かな心を育むためには、道徳や学級活動もあるが、一番は授業。授業がわかってこそ心は育つ。教員は一方的に教えるのではなく、問いを発しながら学びあう授業に変革してほしい。(有村委員)
- ・失敗したとしても、それを課題として、自分の中で何とかしていこうという力を持てるような子どもたちに育ってほしい。(鈴木委員)
- ・相手の事情や周囲の状況について、十分に思い巡らせられる、気遣う、相手の気持ちを察する、そのような子どもたちになってもらいたい。(富田委員)

### <言葉について>

- ・美しい言葉は美しい心を育てていくものだと思っている。今の子どもたちが使う「やばい」の言葉は、おいしいもやばい、まずいもやばい、うれしいもやばい、悲しいもやばいで、色々なものが「やばい」という言葉で集約されている。こういった簡素化された言葉がはびこる世の中で、子どもたちの心が良く、美しく育っていくのか。言葉の理解があやふやになっていることから、だんだん貧しい心になってしまっていると感じる。言葉は心を育む部分で大切なものと考えて。(野村委員)

### <保幼小の連携について>

- ・保育園・幼稚園と小学校との連携をさらに深めていき、教育の部分でいうと、小学校に上がるまでには、せめてこれくらいの学力は欲しいという具体的な話をする機会をもっていきたい。(加藤委員)

### <学校・家庭・地域の連携について>

- ・地域や保護者が学校教育と一緒にあって取り組むという前提が必要。協力ということではなく前提が必要な時代だと思っている。そういったことをまずは地域や保護者に周知していくことからスタートしていく必要がある。(清家委員)
- ・青少年対策委員会では、地域も巻き込んで、リーダー講習会など子どもを中心に自分たちで考えて企画して運営するというをやっている。その中で、心豊かな自主性のある子ども、企画力のある子どもを育てていきたい。(和田委員)

### <STEAM 教育について>

- ・変化の激しい時代を生きるために、自分で考えて、自分で行動して、自分で対処する力を付けていく必要がある。大田区が新設を予定している新教科「おおたの未来づくり」は、子どもたちが地域の課題に関わり、考えて、解決していくんだという気持ちの根は育てることができていると感じる。(松橋委員)

### <共生社会について>

- ・大田に暮らす全ての子どもたちが、誰一人取り残されることなく、人生 100 年時代を生き生きと学び続けられる環境を整えて、一人ひとりが持っている可能性を花開かせられるような学校教育を続けていきたい。また、誰もが自分らしく生きることをまずは大切に、ともに認め合いながら協力して持続可能な社会を創っていく、それを担える人材を育てていくことが新しい教育ビジョンに求められる。そして、人類共通の課題というものに対して、一緒に向き合っ、国や文化、世代を超えて協力すること、自分事として受け止められる子どもたちを育てていくことを目指していきたい。(阿部委員)
- ・次期教育振興基本計画には、誰一人取り残さず、すべての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進とあり、障がいの有無にかかわらず、これからの子どもたちが成長していくことを願う。(濱野委員)

### <心の居場所づくりについて>

- ・学校でも家庭でも塾でも、子どもたちが自分の居場所だと感じる、ここは私が居ていいんだ、居る場所なんだなということを感じることが大事。子どもたち一人ひとりが今何を考えているのかを引き出してあげて、一緒に寄り添って伴走してあげる大人が一人でも多くいれば、その子は幸せだと思うし、将来が開かれていると思う。(河合委員)

### <教員にもってほしいリテラシーについて>

- ・1 点目はデジタルリテラシーについて、ICTはただ学習ツールとしての活用だけでは今後の Society5.0 への移行に際して不安を感じる。学校活動にはデジタル変換されていないたくさんのデータがある。それらを集集、分析し、生活指導や学習指導に活かしていただきたい。そのためのリテラシーを持ってほしい。2 点目は教育心理のリテラシーについて、経験則や前例踏襲だけでは気づけない教えのコツを学び、色々な引き出しを増やして、子どもへのアプローチを高めてもらいたい。3 点目はダイバーシティ共生及び協働のリテラシーで、先生が率先して他者を受け入れ、また異なる他者

に受け入れられるという姿勢を子どもたちに示してあげてほしい。(星山委員)

### ＜コミュニケーション能力について＞

- ・コミュニケーション能力を高める上で大事なことは、人を認める、人を肯定する気持ちをもつこと。それを重ねることが自尊感情を育む上でも重要であるとする。(伊藤委員)

### ＜高度情報化社会に必要な力について＞

- ・今の子ども達は生まれた時から色々な情報や豊かなものに囲まれて、自分から求めなくても全部与えられていくという感じがある。それをうまく消化して、自分のものとして勉強につなげていくとか、学びに対する意欲を引き出してあげられる教育ができればいい。(鈴木委員)
- ・将来にかけて情報過多になり、何が大切か、何が正しいか、自分の考えがわからない社会になっていくと思う。自分の力で考えることができるようになるために必要なものは、豊富な知識。基本となる考えや、物事の成り立ち、様々な考え方、色々な知識が結びついていく時に、自分で考える力が飛躍的に伸びていくと思う。(藤井委員)

## 6 中学生からの意見発表

大森第十中学校 原 理紗さん「なりたい大人について」

石川台中学校 小野 風音さん「地域が活性化し、地域のつながりを強くするために何ができるか」

志茂田中学校 田中 咲妃さん「学校でどのような力を身に付けたいか」

大森第三中学校 古屋 真奈さん「どんな学校になって欲しいか、学校に望むものはなにか」

## 7 今井教育総務部長挨拶

事務局を代表して一言御礼申し上げます。

本日は委員の皆様から、それぞれのお立場で貴重なご意見をたくさんいただくことができました。

また、新しい試みとして、大田区の学校で教育を受ける当事者である中学生から直接意見を聞くことができ、その中では、今後の大田区学校教育の目指す姿の核心をつくような声を直接聞くことができ、本当によかったと思っている。

皆様からのご意見を踏まえ、検討を深めて、よりよい教育ビジョン、今いる子どもたちが、その後、一生を生き抜く力、地域を支える力が育まれるような大田区の教育ビジョンとなるように取り組んでいくので、引き続き委員の皆様には、ご意見、ご指導いただきたい。